



発行 生駒市環境基本計画推進会議

発行日 2016年12月1日 No. 78号

連絡先 生駒市環境基本計画推進会議事務局（生駒市役所環境モデル都市推進課内） TEL 0743(25)1135

ECO-net生駒 第7回周年記念イベント 11年目のECO-netのあひ方を話しました

生駒市環境基本計画推進会議

10月30日（日）生駒市コミュニティセンターにおいて、第7回周年記念イベントを開催しました。小紫市長はじめ正会員・賛助会員ら35人が参加しました。

今回の記念イベントは、2年後に行政とECO-net生駒との協働・連携が転換期をむかえるにあたり、昨年の周年記念イベントと今年の総会後の意見交換会で出された意見を基



に、今後のECO-net生駒について運営委員会で話し合ってきた経過を矢田代表から報告し、行政からは地域活力創生部平井部長から「『参画』と『協働』のまちづくり」として、行政の基本的な考え方を示しました。

運営委員会からの報告

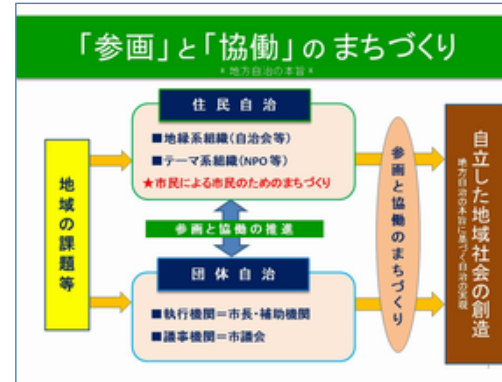
◇ECO-net いこまは 11年目からも いこま・生駒市に 人の営みがあるかぎり 活動を続けていきます。

☆ECO-net いこまの活動をなぜ続けるのか ⇒ ①環境活動は環境基本計画に限定されない ②培ってきた経験や実績を今後も生駒のために活かしていきたい ③環境活動全般の推進組織として行政からも期待されている。

◇目的・ビジョン ⇒ 守っていこう 地域の自然と人にやさしい環境 ⇒ 豊かな自然と人にやさしい環境を守り、住みよいまちをつくります。⇒ ベースは現行の環境基本計画総合ビジョン。

◇生駒市のめざす環境づくりを、市民・事業者・団体が協働で推進するためのつなぎ役になります。

行政の考え方



◇「参画」と「協働」のまちづくり ⇒ 地域の課題等を参画と協働のまちづくりの手法で解決し、自立した地域社会を創造する。

◇「参画」⇒ 市の施策や事業等の計画、実施および評価の各過程で、責任をもって主体的にかかわること。参画の原則 = 情報共有、信頼・連帯、学習・相互理解、協働、判断・選択、効率・効果

◇「協働」⇒ まちづくりの主体である市民等と市または市民同士が、それぞれの責任と役割分担に基づいて、互いの立場や特性を生かし、尊重しながらよりよいまちづくりに協力しあうこと。協働の原則 = ①自主自立・対等 ②相互理解・目的共有 ③公平・公正・公開

◇公益活動とは ⇒ 個人や団体構成員の利益ではなく、不特定多数の第三者の利益のための活動。社会的弱者支援など、間接的に社会全般の利益になる活動を含む。

◇市と団体との協働のあり方 ⇒ 協働の形態の事例（事業委託・補助金交付・委託契約・共催や実行委員会・事業協力・後援・指定管理制度・情報提供と交換）

◇ECO-net 生駒が市とのパートナーシップで歩むべき方向 ⇒ ①団体の基本は自立 ②補助事業・委託事業以外の自主事業等で財源確保 ③意欲と親睦、やりがい・楽しみ、負担軽減、事業の選択

☆共感と協働で“地域貢献活動”をおこない、人として“喜ばれる喜び”を体感し自己実現を♡

意見交換会

報告に基づき、「これからのECO-net いこまでやりたいこと」について意見交換をおこないました。以下は主な意見です。

* * * * *

○今日の意見交換会では、これからのすすめ方について運営委員会で話し合った結果としてある程度の骨子が出ると聞いていたが、それが無い中でもう一度今までと同じような議論するのか。

→運営委員会でもそのつもりで議論したが、最終的に結論に至らなかった。何をどうするか具体的な提案ができなかったことは反省している。

この間、運営委員会では、「基本計画推進会議」という縛りから離れて活動が続けることは合意したので、その点について今日は表示した。

来年度総会には最終的な考えを出せるよう、具体的なことを考えたい。

→（事務局から）市の方向性が見えない中で、運営委員会では議論しにくいところがあったと思う。

収益が出る活動等をして「自立」することが基本と考えている。この活動は環境基本計画の推進に限られるものではなく、例えば委託事業などを受けることなどもあり、その場合は市が入っていない方がやりやすいところもある。自立に向けての支援はする。

○市の新しい政策が分かれば、どんな活動がしたいかも考えやすい。

今の計画は、エネルギービジョン、環境モデル都市アクションプランと目標数値も目標時期もバラバラなので整理が必要。新しい計画が出てからの方がECO-net いこまとしての参画の仕方など考えやすい。

○人・お金・場所の確保をどうするかに絞って議論すればいいのではないかと（法人化することも含めて）。他の団体の方から実情を聞きたい。

◇「NPO 法人 サークルおてんとさん」

・資金は主に助成金（年間 250 万円）を取っている。その他、出前講座の講師料もある。

- ・事務所はコープ本部の建物の一角を借りている。会議の場所は無料の会議室を利用している。
- ・生駒市は今までたくさん予算があって羨ましいと思っていた。
- ・お金・人がなくても、活動はできる。

◇「NPO 法人 関西ワンディッシュエイド協会」



- ・主な運営資金は会費。企業会員から協賛金も集めている。
- ・事務所を持たば経費が発生するため事務所はない方がいい。関西ワンディッシュエイド協会は、市長の自宅を事務所にし、電話を 1 本ひいているだけである。
- ・法人化すると面倒な事務が増える。市から事業委託を受けるために法人格を取得したが、それがなければ法人化しなかった。

○法人化することと収入を得ることは別問題。法人化したからと言って資金が得られるわけではない。

○一部の補助金は法人であることを条件としているものもあり、法人化すると有利なところもあるが、補助金に頼りすぎるといつまでも自立できない。それよりも何をしたいかをベースに考える方がよい。ECO-net 生駒は活動の範囲が広いので、ある事業に特化するのではなく、どういう方向性であるか考える必要がある。

ECO-net 生駒は、他の団体の支援・コーディネートする立場にあるという印象を持っている。

○「ECO-net 生駒」は「地球温暖化対策地域協議会」でもある。温暖化防止という切り口での活動を考えればよい。

○定期的に活動を考える会議を開くとよいと思う。

○お金のことは考えずに、まず、会費等でできる範囲のことをするという腹決めをすればよいのではないかと。

○参加する人が楽しいと思う活動をしていると人が集まる。似たような活動をしている団体と連携を持つ。

○今後の活動として、ボランティア活動だけでなく市からの委託事業を受ける。
例：環境フェスティバル・環境シンポジウム・出前授業・みどりのカーテンコンテスト など

○市民に活動を理解してもらって「マイサポいこま」を取るのも一つの手段。

* * * * *

多様なご意見、ご助言、ありがとうございました。

運営委員会では、1 月に来年度総会で提案する骨子について、集中して論議をすすめていく予定です。

